

平成30(2018)年度 病虫害発生予報 第10号

平成31(2019)年1月25日
栃木県農業環境指導センター

○大気が乾燥傾向のため、害虫の発生動向に注意しましょう。

予想期間 1月下旬～2月下旬

予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：少ない
- (2) 根拠 ・現在の発生量は少ない(平年比0.0%：ほ場率)。(一)
・向こう1か月の降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並の見込み。(一～土)
- (3) 対策 ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・発生状況に応じてフルピカフロアブル等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備考 ・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：少ない
- (2) 根拠 ・現在の発生量は少ない(平年比0.0%：ほ場率)。(一)
・向こう1か月の降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並の見込み。(一～土)
- (3) 対策 ・軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行うなど、ほ場管理に留意する。
・発生を予防するため、硫黄粒剤でくん煙する。
・発生が見られたらガッテン乳剤等を散布する。
- (4) 備考 ・硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、天敵を導入した場合は長時間のくん煙処理は避ける。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠 ・現在の発生量は平年並(平年比65.3%：ほ場率 平年比58.3%：発生株率)。(土)
・向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並または少ない見込み。(土～+)
- (3) 対策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
・化学薬剤に対する抵抗性発達が著しいため、系統の異なる薬剤のローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しない気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
・気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。
また、葉・果実などの傷みを防ぐため、乾きにくい雨天日等の散布を避ける。
・カブリダニ剤の追加放飼を行う際にハダニ類の発生が目立つ場合は、カブリダニに影響の小さい薬剤を散布してから放飼する。
- (4) 備考 ・天敵放飼から1～2週間は薬剤散布を避ける。
・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

4 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠 ・現在の発生量はやや多い(平年比195.4%：ほ場率、平年比50.0%：株率)。(十)
・向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並または少ない見込み。(土～+)
- (3) 対策 ・発生が見られた場合は、モスピラン顆粒水溶剤、ウララDF等を散布する。
- (4) 備考 ・天敵の放飼を行っている場合は、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。

5 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 掘 ・現在の発生量は平年並（平年比88.8%：ほ場率 平年比63.6%：発生株率）。
（±）
・向こう1か月の降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並の見込み。（－～±）
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を稼働し、植物体表面に結露が生じないように管理する。
・咲き終わった花卉や発病果、発病葉は伝染源となるので速やかに取り除き、施設外で処分する。
・発生状況に応じてベルコートフロアブルやジャストミート顆粒水和剤等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・微生物防除剤（ボトキラー水和剤等）は発病前～発病初期に使用する。また、低温条件では効果が出にくいので、施設内温度は10℃以上を確保する。
・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

6 トマト 葉かび病

- (1) 発生予想 発生量：**少ない**
- (2) 根 掘 ・現在の発生量は少ない（平年比0.0%：ほ場率）。（－）
・向こう1か月の降水量は平年並または少なく、日照時間は平年並の見込み。（－～±）
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。
・肥料切れ等により生育が衰えると発生しやすいので、肥培管理に注意する。
・生育状況に応じて、不要な下葉の除去を行う。
・発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。
・予防を主体にダコニール1000やトリフミン乳剤等を葉裏によくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・抵抗性品種に発病するレースが確認されているため、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、発生に注意する。[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

7 その他の病害虫

		現 況	発生予想			現 況	発生予想
いちご	コナジラミ類	やや少	やや少	きゅうり	べと病	少	少
	アザミウマ類	平年並	やや多		うどんこ病	やや少	やや少
トマト	コナジラミ類	やや少	やや少	きく	ハダニ類	平年並	平年並
	にら	白斑葉枯病	平年並				

- 農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう！
○同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。
○花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。

1か月気象予報（予報期間1月26日から2月25日 1月24日気象庁発表）

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、低い確率50%です。

	低い（少ない）確率	平年並の確率	高い（多い）確率
○気温	30%	40%	30%
○降水量	40%	40%	20%
○日照時間	30%	40%	30%

詳しくは農業環境指導センター(Tel 028-626-3086)までお問い合わせください。
病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。